

6月20日ワークショップの参加者プロフィール（韓国側参加者のみ）

ペク・ジュンキ（BAEK Jun-Kee）

高麗大学校（1984-1991年）、モスクワ州立大学（1992-1997年）にて政治学を学ぶ。ハーバード大学デービスセンター客員研究員（2005年）、ケンブリッジ大学クレアホール客員・終身研究員（2009年）、韓信大学校国際学研究科（平和・人権）科長（2006-2008年）を歴任。

ジョン・テウク（CHUNG Tai-Uk）

仁荷大学校法学部教授。ソウル大学校で PhD を取得。専門は法と哲学。韓国問題に関心がある。「朝鮮半島の平和と北朝鮮の人権問題」（2009年）、「法哲学における自由主義」（2007年）などの著書がある。

ファン・インソン（HWANG In-Sung）

韓信大学校教養学部教授。韓国の民主主義と統一のための国家同盟、ハンギョレ統一文化財団、統一朝鮮のための民衆運動など、朝鮮半島の平和や統一をめざす市民団体での活動経験を有する。

キム・ドンジン（KIM Dong-Jin）

韓信大学平和と公共性センター研究員。韓国平和文化研究院代表。2010年8月、北韓大学院大学で PhD（北朝鮮研究）を取得。平和・紛争研究で MLitt（シドニー大学）、神学で MDiv と BA（韓信大学）を取得。主たる研究分野は、朝鮮半島、北東アジア、そしてより広い地域における平和構築、和解、人道及び開発協力。2005年から2008年までは韓国軍の従軍牧師を務めた。2004年に韓国長老教会より牧師に任命された。韓国語の近著には「朝鮮半島における平和構築：世界教会運動の役割」（ソウル、韓国神学研究所、2011年）がある。また、「平和を構築する：分断社会における持続可能な和解」（原著者はジョン・ポール・レデラック。Humanitas Books、2012年）、「平和への希求：力の創造性を発揮する」（原著者はスチュワート・リーズ。Samin Books、2011年）の2つの翻訳書がある。

キム・ソン Chol（KIM Sung-Chull）

ソウル大学校統一平和研究院教授（平和研究）。統一研究院上級研究員（1992-2003年）、ウィスコンシン・マディソン大学政治学客員教授（2002-2003年）、広島市立大学広島平和研究所教授（2003-2012年）を歴任。関心分野は、国際安全保障と平和、政治的暴力、核技術の軍民両用性。東アジアの同盟政治に関する単著を執筆中。「金正日体制下の北朝鮮：一体から全体的不調和へ」（ニューヨーク州立大学出版会、2006年）など多くの著書がある。

編著には「北東アジアの地域協力とその敵国：軍事力の影響」（ルートリッジ、2006年。エドワード・フリードマンとの共編）、「北朝鮮への関与政策：有効な代替策」（ニューヨーク州立大学出版会、2009年。ディビッド・カンとの共編）、「東アジアにおける国家暴力」（ケンタッキー大学出版会、2013年。N・ガネサンとの共編）などがある。「システム研究と行動科学」（旧「行動科学」）、「東欧政治」（旧「共産主義研究と移行政治ジャーナル」）、「開発と社会」などの学術誌に多くの寄稿がある。

イ・ヘンウ（LEE Haeng-Woo）

米国同胞全国協会（NAKA）創設者・名誉会長、統一学研究所創設者・代表。1986年から1995年まで、韓民族米州広報院（KIRC）の代表を務める。1960年代にクエーカー教徒になった最初の韓国人の一人。1982年にアメリカ・フレンズ奉仕団の一員として北朝鮮を訪問して以降、朝鮮半島の統一運動に尽力してきた。2005年には、朝鮮半島統一に向けた6.15南北共同宣言の履行のための国家共同委員会設立会議に参加。現在、米国地域委員会代表。過去30年にわたり、朝鮮半島の平和、和解、統一の促進に向けて、米国、南北朝鮮、他の国の人々を繋げる数多くの会議、セミナー、ワークショップ等を企画・実施・参加してきた。ソウル大学校卒業後、15年にわたって韓国の高校や大学で数学を教えた。1968年に渡米。システム解析者としての40年間の勤務のなかでITシステムの解析、設計、プログラミングなどを多くの企業で行った。

イ・ヘジョン（LEE Hea-Jeong）

中央大学校（ソウル）政治学・国際関係学部教授。ノースウェスタン大学でPhD（政治学）、ソウル大学校でMA、BA（国際関係論）を取得。研究分野はアメリカ外交政策、東アジア安全保障、国際関係論。

イ・ヒオク（LEE Hee-Ok）

成均館大学校政治学部教授、成均中国研究所所長。北京大学やワシントン大学（シアトル）で客員教授を務める。韓国外国語大学校でPhD（政治学）を取得。「現代中国研究学会」会長を長らく務めた。30冊の著書・編著、80以上の論文を発表。近著には「中国の大戦略研究」「中国の新社会主義研究」がある。

イ・ジョン Chol（LEE Jung-Chul）

ソウル大学校でPhD取得。崇実大学校准教授（政治学）。サムソン経済研究所上級研究員（2002-2006年）、統一部諮問委員（2006-2008年）を歴任。現在、北朝鮮研究韓国協会総務部長、南北間協力のための崇実研究所代表。

イム・ドンウォン（LIM Dong-Won）

ハンギョレ統一文化財団会長、韓国平和フォーラム共同代表。金大中政権(1998年2月-2003年2月)において、大統領上級秘書官(外交・国家安全保障担当)、統一部長官、国家情報院事務局長、大統領特別諮問委員(国家安全保障・統一担当)を歴任。太陽政策の立役者として知られ、2000年6月の南北首脳会談及び6月15日の南北共同宣言の実現に貢献した。

ムン・ジョンイン (MOON Chung-In)

延世大学校政治学教授。国家安全保障会議(NSC)諮問委員、外交通商部・国家安保大使、延世大学校国際学大学院研究部長、大統領直属・北東アジア委員会委員長(長官級)を歴任。40冊以上の著書の他、「世界政治」「国際研究」「世界開発」などの学術誌に230以上の論文を発表している。2000年と2007年の南北首脳会談に特別代表として同席。2003年には次期大統領予定者の盧武鉉によるハイレベル代表団の一員として渡米。北米国際学会副会長、韓国平和学会会長を歴任。韓国財団、世宗財団、東アジア財団、国際平和財団の理事を務める。「グローバル・アジア」編集長。

ペク・ハクスン (PAIK Hak-Soon)

世宗研究所上級研究員、同研究所北朝鮮研究センター長。ペンシルバニア大学にてPhD(政治学)を取得後、ハーバード大学でポストドクトラルフェローを務めた。韓国統一部南北関係発展委員会委員、金大中平和センター諮問委員、韓国平和フォーラム理事を務める。統一部政策評価委員会委員長、ソウル・ワシントンフォーラム代表、民族和解協力汎国民協議会の政策委員会(KCRC)委員長、韓国政治学会副会長を歴任。著書には、「北朝鮮における力の歴史：思想・アイデンティティ・構造」(2010年、韓国語)、「南北関係における変容と継続」(2013年)、「北朝鮮政治における軍隊：その特性、地位、役割」(2011年)(韓国語)がある。

パク・スンソン (PARK Soon-Song)

東国大学校教授。南北関係、北朝鮮経済、統一政策を担当。パリ大学でPhD取得(経済学)。参与連帯(PSPD)平和軍縮センター長、民主政策研究院(DUP)院長を歴任。

イ・キホ (YI Ki-Ho)

韓信大学校教授(政治学)、平和と公共性センター(CPPI)センター長。ノーチラス研究所との協力の下、2008年に立ち上げられたネットワーク型シンクタンク・アジア地域イニシアティブ(ARI)の創設者・代表である。韓国コーディネーターとして核軍縮・不拡散議員連盟(PNND)に関与。2003年から2006年にかけて、韓国平和フォーラムの代表を務め、北東アジア協力の文脈で南北間の平和・協力問題に取り組んだ。大統領直属の北東アジアイニシアティブ委員会の諮問委員も務めた。1999年から2002年にかけて、早稲田大学客員

研究員として、地域レベルでの市民運動と東アジアの平和との関連を研究した。1999年より以前は、10年にわたり韓国クリスチャン・アカデミーに勤務し、韓国の政治的变化や世界的な平和ネットワークの構築についての研究に取り組む。1997年、延世大学校に博士論文（「韓国の民主化プロセスにおける社会運動ネットワーク」）を提出。